



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行しています。

令和7年度 栄養教諭・学校栄養職員研修会

令和7年7月7日（月）実施

「子どもたちの栄養課題を考える～栄養課題の把握と支援～」

講師：神奈川県立保健福祉大学 地域貢献アドバイザー

済生会横浜市東部病院 非常勤管理栄養士

藤谷 朝実 氏

栄養スクリーニングで子どものもつ栄養課題を把握し、できることから改善を目指そう！！



【現在の子どもを取り巻く栄養課題】

- 過体重 ○ 食物アレルギー
- 偏食 ○ 出生数の減少
- 発達障害（食行動や偏食）
- 成長障害（低身長・体重増加不良）
- 医療的ケア児・低出生体重児の増加



こんなにたくさんの栄養課題があるんだ！どうやって栄養課題がある子どもを見付けていけばいいの？

栄養課題がある子どもを見付けるためには栄養スクリーニングを行う必要があるよ！



栄養課題解決に向けた体制づくり

1 定期的な栄養スクリーニング

栄養状態を示す指標となる身長・体重を客観的に評価するために**記録を残す**。

2 栄養診断（栄養状態の判定）

栄養課題があると考えられる子どもの栄養状態に至った理由・原因、栄養状態を明確に示し、対象者の栄養状態を**論理的に説明**できるようにする。

3 栄養介入計画

「原因を取り除く」又は「状況を改善する」ための栄養介入を計画し、子どもの状況に応じた必要栄養量の算出を行う。その中で、**栄養介入の必要度が高い順に優先順位をつける**。

4 個別相談

個別相談の前に、前回の計測値を必ず確認する。学級担任、養護教諭等、多職種で連携を取り、子どもの生活の様子について情報収集した上で、実施する。

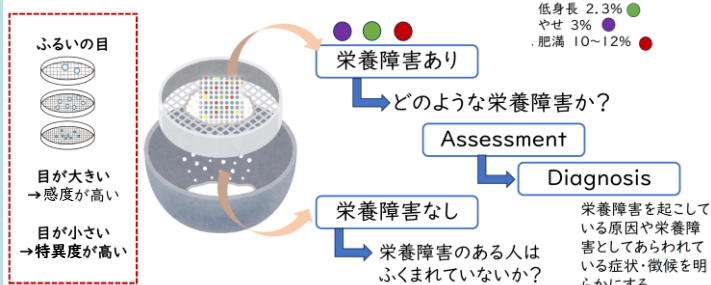
5 計画実施

個別相談を基に栄養介入計画を修正し、**効果的に解決できるものを優先しながら改善を目指す**。

栄養スクリーニングのイメージ

Screening Assessment Diagnosis

Screening:ふるい分ける



※ このふるいの目（年齢毎の身長や体重基準）を決めることが栄養教諭の役割！

個別相談の際の注意点

- (1) 客観的な情報（身長や体重、BMI、肥満度など）を収集し、**提示**できるように準備する。
- (2) 子どもは養育者の影響を大きく受ける場合があるため、それぞれの家庭の状況を尊重しながら**折り合い**をつけることを大切にする。



【受講者の感想】

- ・ 児童の健康課題の実態をスクリーニングし、栄養状態を評価することは今までできていなかったもので、まずは記録していくことが第一歩だと思った。
- ・ 毎年行っている計測値を基に記録を残すことで、数値的な課題を把握し、養護教諭や担任・管理職と相談・共有し、一回きりの個別相談ではなく、長期的に子どもたちの栄養課題を良い方向に進めていく体制づくりを学校全体で考えていきたい。
- ・ 本研修を受け、まずは対象者の抽出から実施していきたい。その際、学級担任とも連携し、個人の家庭背景にも配慮しながら計画をしていきたい。

「愛着障害の理解と児童生徒への対応」

講師：立正大学 村上 達也 准教授



愛着（アタッチメント）



愛着（アタッチメント）とは、危機的な状況に際し、特定の対象との近接を求め、また、これを維持しようとする個体の傾向を意味する。つまり、ストレス状況下における他者を通じた気持ちのコントロールのことである。

愛着（アタッチメント）対象は、**子どもと長く関わる他者（養育者）**

- 近接性の維持（その人と一緒にいたい）
- 安全な避難場所（嫌なことがあったら慰めてくれる）
- 分離苦悩（その人と離れたくない）
- 安全基地（その人と一緒にいると安心できる）

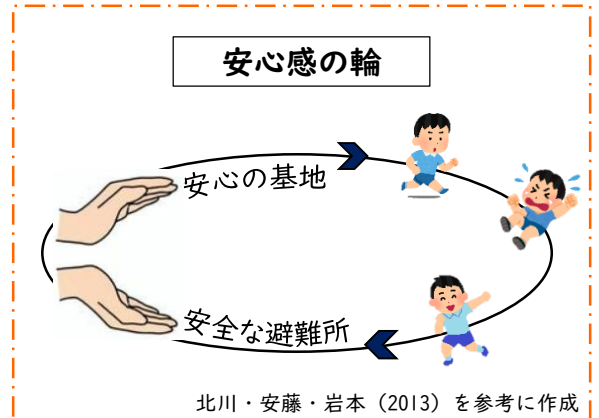
養育者とは
こんな存在！

誰しもが誰かにアタッチメントを向けているよ。対象は誰でもよいというわけではないよ。



子どもの発達段階の中で、養育者との関わりを通してアタッチメントシステムが形成されていく。子どもが出したシグナル（言葉・行動・態度など）に養育者がどのような応答をしたかによって、アタッチメントの在り方やどうすれば安心が得られるかという行動パターンに違いが生まれる。

養育者は子どもを見守り、困ったときには抱きしめ、助け、子どもがいつでも戻ってこられる準備をしておくとともに、子どもが何事にもチャレンジできるように温かく送り出すといった「**安心感の輪**」（右図参照）を整えることが大切である。



愛着から考える子どもとの関わり方

【教師（大人）として】

- 安心基地・安全な場所として、温かく接し、基本的にどっしりと構える。
- 子どものシグナルに敏感になる。
- 子どもが不安を抱え、そばに寄ってきたら（シグナルを送ってきたら）、気持ちに寄り添い、情緒的に支える。
- 子どもが主体的・自律的に行動している時は、踏み込まず見守る。
- 離れた所から調整したり、応援したりする。

完璧な養育・完全な対応はありえないので、**ほとんどの養育で長く関わっていくことが重要！**

【学校として】

- 一貫性・見通しをもたせて安心感を与える。
 - ❖ 1日のスケジュールを示す。
 - ❖ 学校内のルールを統一する。
 - ❖ 守るべき約束事を共有する。
- 見捨てはしないが、関わりすぎない。
- 愛情をもって境界を設ける。
 - ⇒ チームとしての連携・互助、職員間で相談しやすい環境をつくる。

困った時や不安な時は、シグナルを出して支え合おう！これはみんなに言えることだよ！



養育者が子どもを観察し、子どもの出すシグナルを受け止め、子どもが安心**できるよう関わるのが大切！**

【受講者の感想】

- ・ 養護教諭として生徒が安心できる場を提供し、大人を信頼できるように関わりを深めていくことの責任を強く感じた。学校内のルールの一貫性や見通しについては、愛着障害に限らず生徒指導の基本だと思うので、引き継ぎ、担任等と協力しながら生徒支援を続けていきたい。
- ・ 児童が今まで育ってきた歴史を理解することで、愛着のタイプと特徴を知ることができるといった。養護教諭として児童と関わる時、その児童の個性を踏まえた上で、支援をしていきたい。そして、関わりの中で感じたアタッチメントの分析をし、自分の支援がその児童のアタッチメント欲求に添えているのかを振り返り、その後の支援に生かしていきたい。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。